

リーディングスキルテストの共同研究



国立情報学研究所社会共有知研究センター長
情報社会相関研究系教授
新井紀子氏



筑波大学
ビジネスサイエンス系准教授
尾崎幸謙氏



筑波大学
人間系助教
登藤直弥氏

はじめに

リーディングスキルテスト（RST）とは、生涯学び続けることが求められる変動の時代の基本スキルである汎用的基礎的読解力（リーディングスキル：RS）を測るためのテストです。このテストは、コンピュータ上の調査（CBT）で実施され、主述関係の読み取り（係り受け解析）や、新しい概念の理解（具体例同定）など、6タイプからなる基礎的読解スキルを測定します。とだっ子が更なる学力向上を目指せるよう、すべての能力を支えるRSを、様々な教科の学習を通じて育む必要があります。

■ 本年度の戸田市リーディングスキルテストと県学力調査の結果から

戸田市でのRSTの実施は平成28年度に開始し、6年目に当たる本年度は、小学校4校、中学校2校が受検しました。本稿では、本年度のRSTと埼玉県学力・学習状況調査（以下 県学調）の結果の関係について新しい分析結果を報告します。

（１）リーディングスキルテストと県学調の関係（国語）

以下の表1はRSTのDEPからINSTまで6領域（INSTはINSTdとINSTmに分類されます）の成績と県学調の国語の成績との間で相関係数と呼ばれる数値を求めたものです。相関係数は－1から1の範囲の値をとり、正の値を取る場合には、両者（RSTと県学調）の間にある程度の比例関係があると解釈できます。表1を見ると、どの学年においてもRSTのすべての領域が国語の成績と正の相関を持っています。これは、RSTのすべての領域が国語の成績の土台になっていることを表しています。

表1：RSTと県学調（国語）との相関係数

	DEP	ANA	PARA	INF	REP	INST	INSTd	INSTm
小6	0.56	0.59	0.51	0.55	0.61	0.70	0.62	0.64
中1	0.62	0.63	0.44	0.51	0.54	0.62	0.55	0.55
中2	0.62	0.59	0.49	0.60	0.54	0.61	0.52	0.58
中3	0.71	0.70	0.63	0.66	0.69	0.73	0.69	0.70

さらに詳しく見ると、相関が高い（1により近い）のはDEP、ANA、INSTといった領域であることが分かります。DEPは文と文の関係を正しく把握する力であり、読解力の最も基礎となる能力です。ANAは「その」「それ」といった代名詞が何を指しているかを正しく認識する力です。INSTは辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得する力です。自ら新しい概念を獲得する場合にはINSTの能力が必要となります。DEPやANAは文章を理解するための基礎となる力ですが、小学生高学年や中学生であっても、そのような力を伸ばすことが国語の学力にとって重要であると言えます。さらに、特に中1→中2→中3となるにしたがって、全体的に相関係数が大きくなる傾向を見て取ることができます。これは、RSを伸ばすことが学年が上がるにつれて重要性を増すことを意味します。

(2) リーディングスキルテストと県学調の関係（算数／数学）

続いて算数／数学です。国語の成績がRSと関係することはあまり驚かなかったかもしれませんが、算数／数学はどうでしょうか。以下の表2を見ると、どの学年においてもRSTのすべての領域が算数／数学の成績と正の相関を持っています。これは、国語と同じように、RSTのすべての領域が算数／数学の成績の土台になっていることを表しています。

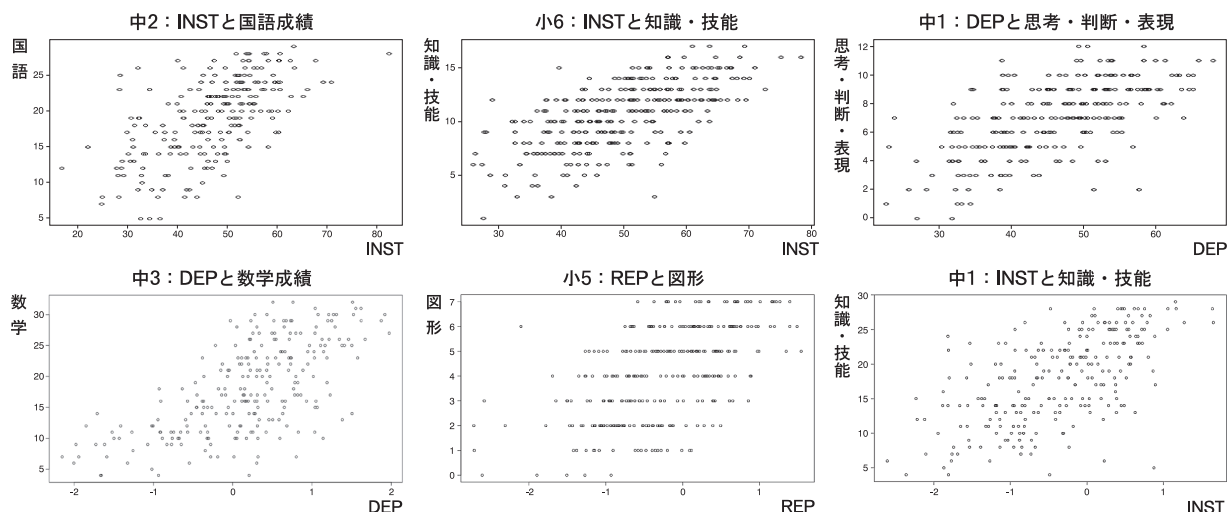
表2：RSTと県学調（算数／数学）との相関係数

	DEP	ANA	PARA	INF	REP	INST	INSTd	INSTm
小6	0.45	0.53	0.45	0.50	0.61	0.69	0.53	0.68
中1	0.50	0.51	0.38	0.53	0.56	0.62	0.45	0.64
中2	0.57	0.50	0.51	0.51	0.57	0.61	0.45	0.64
中3	0.66	0.51	0.64	0.54	0.61	0.74	0.64	0.55

さらに詳しく見ると、相関が高い（1により近い）のはDEP、REP、INSTといった領域であることが分かります。REPは文と非言語情報（図）を正しく対応づける力です。REPの問題は算数／数学の教科書等を参考にすることはありますが、方程式を解くことや面積を求めることが問われているわけではありません。また、DEPは算数／数学の教科書以外から多くの問題を作成しています。これらのことから、RSは算数／数学という一見すると無関係な科目の学力にも影響していることが分かりました。

(3) リーディングスキルテストと県学調の散布図

これまで述べてきた相関係数の様子を図で表しました。どれを見ても、横軸のRSが大きな児童生徒ほど成績が良いことが分かります。県学調の30問それぞれは、指導要領に記載されている国語・算数／数学の領域や評価観点のうちのいずれであるかが示されています。そこで、全問題の成績とは別に領域や評価観点ごとの得点も求め、RSとの関係を示しました。「知識・技能」「思考・判断・表現」「図形」がそれぞれあたります。



国語や数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」は、指導要領において国語科や算数・数学科で育成を目指す資質・能力の3本柱のうちの2つであり、DEPやINSTといったRSと関係があることが分かりました。

おわりに

本年度は、RSを継続して測定するとともに、RSTの各領域と県学調の関係を調べることができました。今後も、これらの研究蓄積を生かし、効果的な指導方法をみなさんと共に吟味していきたいと考えています。